

1 主屋土間部西側の布石据付

先月に土間部西側の土台を取り付けしたが、引き続いて砂岩布石を土台下側にすくい込んで据え付けた。写真はその状況。

すでに据え直した石積基礎の天端石と、この布石との間に石を飼い込み、グラウト(無収縮モルタル)を流し込んで空隙を充填した。これで上部構造を解体することなしに、土台取り替えと不陸調整ができた。

式台等の礎石据え直しも終わり、今月で主屋すべての基礎工事(礎石関係)が完了した。



2 主屋木地の間 縁隅柱の修理

木地の間と畳廊下の取合い部分では、屋根形状が複雑なため雨漏りが激しく、その縁隅柱は、上部桁及び下部大引との仕口付近で、大きく腐朽破損していた。柱は土台にホゾ差しのうえ、上下とも二方からの仕口があるので一本ものにすると建て込みが難しい。そのため今回の施工では、破損の少ない中央部1/3を再利用し、上下1/3ずつは新材に取替えて三丁継ぎとした。桁は矧木修理(一部金物による補強) 大引は一方を継木修理し残る一方は取り替えた。

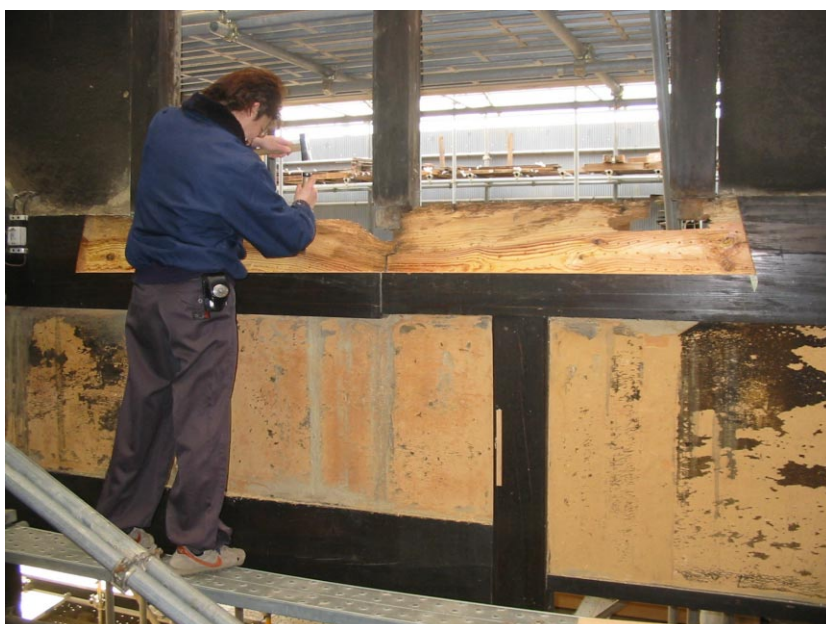


3 土間部妻壁の胴差の修理

土間部西面妻の胴差は、妻壁面に設けられた高窓の雨仕舞が悪く、窓の敷居から水が入り、大きく腐朽してしまっていた。この胴差は上部束の屋根荷重を下部の柱に伝える役割を持っており、十分な強度で補修する必要がある。

しかし今回の修理では妻壁を解体しないので、室内側と外側から大断面の新材を矧ぎ付ける方法で修理することとした。

写真は室内側の修理状況。



4 主屋土間部大梁の修理

土間部上屋桁に京呂組でかかる大梁（登梁）は、北側の一部が雨漏りによって腐朽してしまっていた。

ここでも小屋組はこれ以上解体しないので、大梁渡腮のかかり分を、だましだまし持ち上げ、上屋桁を継木修理し、大梁天端は矧木修理した。写真は、大梁天端の矧材を削っている状況。



5 主屋土間部小屋組の修理

上記で修理した大梁（登梁）は写真中央左側に見える。上屋桁を継木修理した後、持ち上げていた大梁を元の位置まで下ろした状況。

土間部小屋組はこのほかにも雨漏りによって腐朽している母屋などがあり、引き続き12月も土間・台所部の屋根葺に向け、小屋組の修理・組立を順次進めていく。



6 主屋煙出部材の修理

主屋土間部屋根には、かつて一間四方の煙出が載っていたが、台風の被害によって昭和30年代に撤去され、部材が長屋蔵に保管されていた。

今回の修理工事では昨年度に現状変更の許可を受け、この煙出を復旧することとなっている。保管部材は腐朽・破損しているものも見られたため、煙出部材の修理にも取りかかった。写真は煙出軒桁の修理状況。

